co-op コープデリ
コープみらい
「ともに」の力で、笑顔の明日を
東京エリア内で発行しているイベント情報紙です

TOKYO INFORMATION

2026 11/9
コープみらい東京インフォメーション
ホームページ コープみらい 検索
●コープデリ宅配配布期間 11月9日～11月13日 ●コープデリ店舗配布期間 11月13日～11月26日 ※次号発行は11月23日(月)の予定です。



ピースアクションinオキナワ 第44回沖縄戦跡・基地めぐり

～コープみらいオキナワ平和の旅のご案内～

コープみらいでは、戦争の事実を知り、学び、次世代に伝えていくことを目的に「平和の旅」を実施しています。
沖縄は住民を巻き込んだ地上戦がおこなわれ、多くの命が犠牲となりました。
平和の旅では、戦跡などを訪れ、沖縄戦の実相や現在も続いている米軍基地の問題について、
全国の生協からの参加者と一緒に学び、平和について考えます。

過去に学び、未来へつなぐ
平和とよりよい生活のために

●旅 行 期 間 2027年3月24日(水)～3月26日(金) 2泊3日

●宿泊先ホテル インフィニス那覇首里城 by ヒューイットリゾート

●旅 行 代 金 (羽田空港発着) 大人65,500円、大学生(◆)・高校生・中学生・小学生39,000円 ※大人・1室2名様以上利用
◆学生は次世代継承を重視し、30歳未満とします。
旅行代金には、往復航空券代・宿泊費・食事代(1日目の夕食、2・3日目の朝食)を含みます。
表記以外の食事代は自己負担となります。
＊旅行代金は、コープみらい平和の旅募金より一部補助された金額です。

●参 加 対 象 コープみらいの組合員とその家族16名(定員以上の申し込みがあった場合は抽選となります)
＊事前交流会、体験報告交流会に参加できる方。
＊小・中学生は保護者同伴での参加をお願いします(保護者は20歳以上の兄弟姉妹・祖父母も可)。
＊学生は(2027年3月時点で)小学5年生以上が対象となります。
＊20歳以下の方が単独で参加する場合や祖父母が孫と参加する場合などは、親権者の承認が必要です。
＊急な階段や足元が悪い中を移動する行程があるため、健脚な方の参加をおすすめします。
不安な点のある方は、その旨申し込み時にご記載ください。

●日 程 【1日目】共通プログラム学習講演会(14:00～17:00予定)
沖縄戦と沖縄の基地問題などについて学識者や戦争体験者による講演を予定しています。
【2・3日目】移動時間を短くするなど、身体的負担を軽減したコースを考えています。
＊コースの内容は変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。

●連 絡 方 法 詳細は、右記二次元コードからホームページをご確認ください。

詳しくはこちらから

●締 め 切 り 2026年11月30日(月)
＊結果は12月中旬から下旬を目安に全員の方にメールでお知らせします。
＊定員を超える応募があった場合は、応募動機、事前・体験報告交流会への参加の可否、上記参加対象条件や取り組みの趣旨、2026年以前で平和の旅への参加経験などを考慮の上、選考させていただきます。

●連 絡 先 コープみらい東京都本部 参加とネットワーク推進部
TEL.03-3382-5665 受付時間／9:00～17:00(土・日・祝休業)

※掲載のツアーの交通・宿泊の手続きは旅行会社が行います。申し込みについてのお問い合わせは上記「連絡先」までお問い合わせください。

※取得した個人情報は、厳正な管理を行い、この旅に関してのご案内の目的以外では使用しません。



前回開催の様子

●事前交流会●
2027年3月6日(土)10:30～12:30
会場:コーププラザ浦和
平和の旅の参加目的やミニ学習会を行います。あわせて行程などの説明と参加者どうしの顔合わせを行います。

●体験報告交流会●
2027年4月10日(土)10:30～12:30
会場:コーププラザ浦和
オキナワ平和の旅を振り返り、参加して学んだことを交流し、平和への想いを共有します。

【交流会に関してのお問い合わせ】
コープみらい東京都本部 参加とネットワーク推進部
TEL.03-3382-5665
受付時間／9:00～17:00(土・日・祝休業)

開催報告

コープみらい ヒロシマ・ナガサキ平和の旅

16 平和と公正をすべての人に

2026年8月4日～6日にヒロシマ平和の旅(22名参加。うち大学生1名、高校生2名、中学生1名、小学生4名)、8月7日～9日にナガサキ平和の旅(10名参加。うち中学生1名、小学生2名)を開催しました。参加者一人ひとりが平和の大切さと次世代への継承の必要性を感じることができ、家族間や参加者どうし、多世代で平和について考える旅となりました。

参加者の声

平和の旅に参加したことで、家に帰ってから、家族や友だちに伝えたいことがいっぱいになりました。

二度とあってはならない過去の事実を、若い世代が積極的に関心をもって、後世に引き継いでいくことが必要だと強く感じました。



ヒロシマ開催の様子